

公益社団法人 日本船舶海洋工学会 平成24年度（第117期）事業報告 （平成24年4月1日～平成25年3月31日）

平成25年4月26日理事会承認

本会は、船舶及び海洋工学に関する学術技芸を考究し、船舶の性能及び安全性向上、並びに、海洋の開発利用及び環境保全を図ることにより、我が国の発展に寄与すると共に、我が国の国民生活の向上を図ることを目的としている。この目的を達成するため、会員を含む広く一般国民を対象とした公益目的事業として、調査研究事業ならびに啓発広報事業を行った。平成24年度において実施された事業について、事業区分ごとに以下に示す。

I 調査研究事業

【1】学術講演会

1. 春季講演会

平成24年5月17日、18日、神戸市産業振興センターにおいて、平成24年度春季講演会を開催した。全国から約370名の参加者のもと、学会賞受賞論文の特別講演(3件)、一般講演(101件)、オーガナイズド・セッション(44件)、ポスターセッション(25件)の活発な発表・討論があり、懇親会(173名)を開催し、盛会裏に終了した。講演会論文集(CD-ROM)を450部発行した。

2. 秋季講演会

平成24年11月26日、27日、東京大学柏キャンパスにおいて、平成24年度秋季講演会を開催した。全国から約380名の参加者のもと、特別企画「海事産業で活躍する理系女子」のパネル討論を行うとともに、特別講演(1件)、一般講演(123件)、オーガナイズド・セッション(34件)、ポスターセッション(19件)の活発な発表・討論があり、懇親会(139名)を開催し、盛会裏に終了した。講演会論文集(CD-ROM)を500部発行した。

【2】論文集発行

1. 論文審査委員会

委員数：柏木正委員長ほか22名

主として国内からの投稿論文に対して論文審査を行い、有益な論文を集めて日本船舶海洋工学会論文集第15号、第16号を発行した。また第1回論文審査委員会において平成25年度日本船舶海洋工学会賞(論文賞4件)および奨励賞2件を選考した。

2. 日本船舶海洋工学会論文集刊行

表1-1のとおり日本船舶海洋工学会論文集第15号を平成24年6月に、第16号を平成24年12月に刊行した。

表1-1 日本船舶海洋工学会論文集刊行

	論文数	頁数	発行部数
論文集第15号 (平成24年6月)	24	235	1,000
論文集第16号 (平成24年12月)	22	208	1,000
計	46	443	2,000

【3】英文論文集 (Journal of Marine Science and Technology) の発行

1. JMST 編集委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか34名

世界各国からの120編以上の学術投稿論文に対して論文審査を行ない、有益な論文を43編集めてJMST Vol.17 No.2～Vol.18 No.1を発行した(科研費補助事業)。

2. JMST 刊行

JMST Vol.17 No.2～Vol.18 No.1の4冊を、表1-2のとおり刊行した。

表1-2 英文論文集(JMST)刊行

	論文数	頁数	発行部数
Vol.17 No.2 (平成24年6月)	11	135	550
Vol.17 No.3 (平成24年9月)	12	142	550
Vol.17 No.4 (平成24年12月)	10	146	550
Vol.18 No.1 (平成25年3月)	10	143	550
計	43	566	2,200

【4】調査・研究活動

1. 研究企画委員会

委員数：重見利幸委員長ほか12名

学会の研究活動全般を統括し、研究活性化戦略を企画・推進することを目的として、研究企画委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	報告件数
第22回	24.5.19	日本海事協会	9名	5件
第23回	24.12.18	日本海事協会	9名	6件

実施事項：

- ・分野研究活動の報告及び検討
- ・新規研究委員会の設置に関する審議
- ・分野研究企画部会、研究会等の予算に関する審議
- ・総合的な研究活性化策及び研究戦略の検討

2. 分野研究企画部会

性能・運動分野

委員数：日夏宗彦委員長ほか9名

船舶及び海洋構造物等の性能・運動分野についての研究動向や産業界のニーズを踏まえ、我が国として取り組むべき重点課題の設定と研究活動方針の策定、実施体制の検討を行った。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第19回	24.6.26-27	防衛大学校	11名	5件
第20回	24.10.16-17	阪大中之島センター	12名	6件
第21回	25.1.30-31	海上技術安全研究所	13名	5件

実施事項：

- ・推進性能・運動性能合同研究会の企画、実施
- ・KANRIN特集号記事、講演会オーガナイズドセッションについての討議
- ・重要課題の研究活性化についての討議

海洋工学・海洋環境分野

委員数：大塚耕司委員長ほか11名

海洋工学および海洋環境分野の研究動向を調査・整理するとともに、今後の研究を企画・推進・支援するため、海洋工学・海洋環境分野研究企画部会を下記のとおりに開催した。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	議事
第22回	24.7.24	東京大学	8名	6件
第23回	24.12.14	高知コアセンター	8名	4件

実施事項：

- ・海洋工学・海洋環境合同研究会の企画、実施
- ・第23回海洋工学シンポジウム（24.8.2～3）の開催

構造・強度、材料・溶接分野

委員数：栗飯原周二委員長ほか8名

構造・材料研究や共通構造規則に関し、材料・溶接研究会および各支部にある構造研究会の活動状況の情報交換を実施した。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	報告件数
第1回	25.11.27	東京大学柏キャンパス	8名	4件

実施事項：

- ・各研究会における活動（総計15回、68件）の情報交換
- ・夏の学校による若手技術者の教育と交流
- ・構造と材料を横断する研究テーマの探索
- ・異分野との研究交流と情報交換

設計・艤装分野

委員数：荒井誠委員長ほか10名

造船設計部会、船体艤装工作部会、機関艤装部会、電気艤装部会の4部会を連携させ、横断的な共同研究テーマや共同シンポジウムの検討および情報交換のため、書面協議を2回行った。

実施事項：

- ・第11回造船設計シンポジウム（25.9.26）の企画立案
- ・新規プロジェクト研究テーマの企画立案・評価

工作分野

委員数：後藤浩二委員長ほか9名

船殻工作分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を目的とし、建造革新研究会およびP-38プロジェクト研究委員会の活動進捗確認及び活動方針検討を行った。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.6.7	SHI-ME	8名	3件
第2回	24.10.26	大阪大学	9名	3件
第3回	25.2.01	新大阪丸ビル会議室	13名	5件

情報技術分野

委員数：青山和浩委員長ほか10名

造船産業の情報技術に関する調査研究を目的として以下を実施した。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.6.24	東京大学	10名	2件
第2回	24.9.25	SHI-ME	9名	2件
第3回	25.1.22	JMU 津	12名	3件

実施事項：

- ・シンポジウム「次世代造船システムの構想に向けて」（24.6.4）の開催
- ・次期プロジェクト研究委員会に関する審議

3. プロジェクト研究委員会

今期は10件のプロジェクト研究委員会を実施した。このうち今期に活動を終了した研究委員会は3件（P-30、P-31、P-33）、今期から新たに活動を開始した研究委員会は7件（P-34、P-35、P-36、P-37、P-38、P-39、P-40）である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

P-30 「次世代船舶を目指した艤装工作法の改善」研究委員会

委員数：篠田岳思委員長ほか19名

次世代の艤装工作法改善を考究するため、以下の4テーマについて調査研究した。

- ・CSを目指した物造り（船造りにおける顧客満足）
- ・技能伝承（技術技能交流会）
- ・改善事例評価
- ・PSPC（艤装工作上の問題点抽出）

委員会の開催状況

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.7.30-31	函館ドック	25名	4件
第2回	24.11.15-16	三井玉野	23名	4件
第3回	25.3.15-16	JMU呉	23名	4件

P-31 CFDによる船舶の省エネ性能評価研究委員会

委員数：日野孝則委員長ほか11名

船舶分野における国際的な産業競争力維持の観点から、次世代CFDコードによる船舶の省エネ性能評価を目的として、コードの適用分野の拡張、コードの検証方法の検討とベンチマーク、乱流モデルなど計算モデル開発における技術課題の抽出を行った。

委員会の開催状況

回	期日	場所	参加者数	発表件数
第5回	24.5.24	日本船舶海洋工学会	8名	7件
第6回	24.7.28	日本船舶海洋工学会	7名	6件
第7回	24.10.19	日本船舶海洋工学会	9名	4件
第8回	25.1.10	日本船舶海洋工学会	10名	7件
第9回	25.3.21	日本船舶海洋工学会	10名	7件

実施事項：

- ・新CFD手法の検証のための公表された流場データの調査
- ・省エネ付加物の性能評価のニーズ調査
- ・重合格子法に関するパラメータスタディ
- ・省エネデバイス付き船体まわり流場計測データ取得のためのプロジェクト立案

P-33 「船上艤装装置の多様な駆動方式の選定指針」研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか11名

船上の艤装装置について駆動方式選定の考え方を、指針として纏め造船設計者の実務に資することを目的とした。

委員会の開催状況

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.6.21	名村造船所	4名	3件
第2回	24.8.24	博多駅前会議室	4名	3件
第3回	24.9.27-28	三井千葉	26名	2件
第4回	24.10.19	ホイスネット会議室	4名	2件

実施事項：

- ・造船所・メーカーへのアンケート調査と分析まとめ
- ・階層分析法による機器の価値評価の実施と結果評価
- ・報告書案のまとめと審議

P-34 船舶操縦性予測モデルの高度化に関する研究委員会

委員数：安川宏紀委員長ほか21名

現状の操縦運動予測モデルをもとに、異なる載荷状態の船、横傾斜を伴う船舶にも適用できる予測モデルの構築と検証、浅水域を航行する船の運動予測モデルの提案、水槽試験による流体力係数データベースの作成等を目的とする。

委員会の開催状況

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.7.10-11	北海道大学	17名	13件
第2回	24.11.28-29	三井造船昭島研究所	16名	12件
第3回	25.3.7-8	愛媛大学	14名	16件

実施事項：

- ・船舶操縦運動数学モデルの高度化に関する検討（4自由度操縦運動数学モデルの検討等）
- ・操縦流体力微係数のデータベース構築に関する活動（浅水域における操縦流体力微係数のデータ収集等）
- ・水槽試験技術の情報交換（小型模型船による自由航走試験について等）

P-35 船体構造強度評価のための荷重推定手法の高度化に関する研究委員会

委員数：深沢塔一委員長ほか14名

既存の荷重評価手法における実運航時の技術的問題点を明らかにし、それらを考慮したより高度な荷重評価体系を提案することを目的として、委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.5.14	MSC センタービル	8名	4件
第2回	24.7.5	大阪府大中之島サライト	8名	3件
第3回	24.8.6	日本船舶海洋工学会	12名	2件
第4回	24.10.24	大阪府大中之島サライト	11名	3件
第5回	24.12.26	石川四高記念文化交流館	13名	2件
第6回	25.3.12	沖縄県市町村自治会館	17名	3件

実施事項：

- ・船体構造強度評価に及ぼす操船影響についての討議
- ・高周波数振動成分が船体疲労強度に及ぼす影響に関する討議
- ・国際基準の動向と技術的課題の討議

P-36 船舶の消火設備設計指針改訂研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか計6名

内容見直し時期にきた「船舶消火装置の設計指針」を、規則の改正や新技術を反映させた最新のものとする改訂作業を行った。若手・中堅設計者の学習書も兼ねた設計手引書となる設計指針としてまとめることを目指した。

委員会の開催状況

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.9.4	川崎重工神戸	10名	3件
第2回	24.9.27-28	三井造船千葉	25名	4件
第3回	25.2.14	書面審議	25名	2件
第4回	25.3.6-7	JMU 有明	23名	4件

実施事項：

- ・研究活動計画の確定(検討項目、方針、日程、分担の決定)
- ・指針の改定作業(消火の原理及び一般知識、船舶の火災)
- ・各造船所へのアンケート調査(調査対象規則、消火設備の適用実績)

P-37 海中システム技術・海洋環境管理技術に関わる震災・津波・原発事故の復旧・復興支援と防災に関する研究委員会

委員数：加藤直三委員長ほか22名

大震災・津波・原発事故の復旧・復興支援と防災に関する調査検

討を行い、海からの視点、特に海中システム技術・海洋環境管理技術の観点から、中長期的な研究開発、救援・復興体制、防災対策、原発事故後の海洋監視体制について、技術的検討を行った。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.04.25	大阪大学	12名	1件
第2回	24.07.23	東京大学	13名	1件
第3回	24.12.03	大阪府立大学	17名	3件

P-38 JSQSが定める品質標準の現状調査研究委員会

委員数：青山和浩会長ほか19名

JSQSで規定している品質標準を、現在の造船技術の精度レベルと比較検証するため、造船各社の各事業所でデータ収集、集計を行った。

委員会の開催状況

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.9.18-19	KHI 坂出	15名	3件
第2回	24.12.4-5	MES 玉野	19名	9件
第3回	25.3.14-15	JMU 津	21名	10件

実施事項：

- ・JSQS項目についての計測要領検討、計測実施結果の確認

P-39 「居住区設計指針」研究委員会

委員数：荒井誠委員長ほか計17名

船舶の居住区画・装置の設計指針書を、相互の関連性も含めて有機的・横断的に纏め直し、若手・中堅技術者を対象にした総合的な設計指針書を提供することを目的として活動した。

委員会の開催状況

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	25.2.20	サノヤス造船	9名	3件
第2回	25.3.06	JMU 有明	11名	5件

実施事項：

- ・研究活動計画の確定(検討項目、方針、日程、分担の決定)
- ・改正船内騒音コード調査

P-40 「船舶3D製品情報の共有と高度利用のための標準フォーマットの策定」研究委員会

委員数：濱田邦裕委員長ほか27名

船舶のライフサイクルに関する情報を、3次元製品情報を核としたデータ交換によって、迅速かつ有効に活用できる海事産業内情報交換標準を策定することを目的としている。

委員会の開催状況

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	25.1.22	JAMSTEC	25名	総合討議 1

実施事項：

- ・P-40プロジェクト研究委員会立上の主旨説明
- ・各社の3D Viewerの調査結果報告
- ・今後の進め方についての審議

4. ストラテジー研究委員会

戦略的課題について研究する3つのストラテジー研究委員会を実施した。このうち今期に活動を終了した研究委員会は1件(S-8)、今期から新たに活動を開始した研究委員会は2件(S-10、S-11)である。今期の委員会活動は以下のとおりである。

S-8 海洋環境戦略的管理研究委員会

委員数：村井基彦委員長ほか15名

海洋開発と海洋環境の適正なバランスを保持して管理する手法とその概念について議論し、また現状における課題の抽出・整理・

検討した結果を報告書にまとめた。

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	報告件数
第10回	24.10.26	日本船舶海洋工学会	3名	1件

実施事項：

- ・熱水鉱床開発を想定した海洋環境ガイドライン案の検討
- ・春季講演会オーガナイズドセッション「戦略的海洋環境管理の現状課題とあり方」の企画・実施
- ・最終報告書の取りまとめ

S-10 調和化船体構造規則 (H-CSR) 研究委員会

委員数：藤久保昌彦委員長ほか15名

調和化船体構造規則 (H-CSR) 案について、学術的立場から技術課題を抽出し、合理的規則化のための提言を行うことを目的として、委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	報告件数
第1回	24.4.25	日本船舶海洋工学会	14名	5件
第2回	24.8.28	三井造船本社	10名	3件
第3回	24.12.3	大阪大学	8名	5件
第4回	25.3.12	沖縄県市町村自治会館	10名	3件

実施事項：

- ・H-CSR案および技術背景資料 (TB) に関する審議
- ・課題点の抽出と提言内容の審議
- ・国際船級協会連合 (IACS) への意見発出

S-11 我が国の海洋産業に関する戦略検討委員会

委員数：高木健委員長ほか8名

我が国の海洋産業について議論の場や情報を提供するとともに、学会としての提言をまとめていくことを目的として、委員会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

委員会の開催状況

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第1回	24.7.23	JAMSTEC 東京事務所	9名	1件
第2回	24.11.6	JAMSTEC 東京事務所	6名	4件
第3回	25.1.7	大阪大学	5名	6件
第4回	25.3.13	JAMSTEC 東京事務所	6名	6件

実施事項：

- ・秋期講演会オーガナイズド・セッション「我が国の海洋産業を考える」の企画・実施

5. 研究会

船舶海洋工学に係わる情報交換および技術交流を支援・促進するため各種研究会を設置し、研究発表およびシンポジウム等の活動を実施した。現在設置の研究会は次のとおりである；推進性能研究会、運動性能研究会、材料・溶接研究会、建造革新研究会、造船設計・生産技術研究会、海洋工学研究会、海洋環境研究会、情報技術研究会。

推進性能研究会および運動性能研究会

会員：日夏宗彦会長ほか116名、梅田直哉会長ほか153名

船舶・海洋構造物の推進・運動性能に関して広く情報交換を行い、この分野の研究交流を促進し、関連分野の発展に寄与することを目的として、以下の合同研究会を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第19回	24.6.26-27	防衛大学校	54名	15件
第20回	24.10.16-17	阪大中之島センター	60名	15件
第21回	25.1.30-31	海上技術安全研究所	67名	12件

実施事項：

下記企画を合同研究会にて開催し、集中的な討議を行った。

- ・オーガナイズドセッション「推進性能における尺度影響」
- ・パネルディスカッション「我が国海事産業の競争力向上のため運動性能研究分野は何ができるか」
- ・特別講演「船舶塗料と摩擦抵抗」
- ・その他一般研究発表と討議

材料・溶接研究会

会員：栗飯原周二会長ほか29名

材料・溶接・破壊力学分野について、最新研究の情報交換、討議を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第19回	24.7.20	東京大学山上会館	20名	3件
第20回	24.10.22	東京大学山上会館	19名	3件
第21回	25.3.15	新大阪丸ビル新館	15名	5件

実施事項：

- ・大型コンテナ船のアレスト設計、脆性き裂伝播の評価法検討
- ・重畳繰り返し荷重下における疲労き裂の評価法検討
- ・高圧ガスパイプラインの地震動による座屈、高速延性き裂伝播の研究に関する情報交換

建造革新研究会

会員：後藤浩二会長ほか36名

船舶建造の船殻分野に関わる諸問題の解決及び情報交換を行うことを目的とし、2つのワーキンググループを立ち上げ下記の活動を行った。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
総会	24.6.7-8	SHI-ME 横須賀	36名	3件

WG1：

第4回	24.6.7-8	SHI-ME 横須賀	19名	1件
第5回	24.9.18-19	KHI 坂出	15名	3件
第6回	24.12.4-5	MES 玉野	19名	9件
第7回	25.3.14-15	JMU 津	21名	10件

WG2：

第4回	24.6.7-8	SHI-ME 横須賀	17名	2件
第5回	24.9.20-21	USC 舞鶴	16名	2件
第6回	24.12.6-7	佐世保	13名	8件
第7回	25.3.14-15	MHI 長崎	18名	5件

実施事項：

- ・JSQSが定める品質標準の現状調査 (WG1)
- ・溶接外観の定量的検査基準の計測要領の確認 (WG2)

造船設計・生産技術研究会

会員：荒井誠会長ほか4部会合わせて103名

船舶・海洋構造物の船体・機関・電装に係わる計画から設計・艤装工作に至るまでの過程における技術的諸問題の解決のため、調査・研究の成果を設計や生産に関する指針・基準として纏めて、設計・生産技術の高度化を図ることを目的とした。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
造船設計部会：				
第116回	24.9.27-28	三井造船千葉	30名	7件
第117回	25.3.6-7	JMU 有明	27名	7件

船体艤装工作部会：

第21回	24.7.30-31	函館ドック	25名	6件
第22回	24.11.15-16	三井造船玉野	23名	6件
第23回	25.3.21-22	JMU 呉	23名	6件

機関艤装部会：

第14回	24.11.8-9	函館ドック	33名	7件
------	-----------	-------	-----	----

電気艤装部会：

第12回	24.10.18-19	三井造船玉野	21名	8件
------	-------------	--------	-----	----

海洋工学研究会

会員：尾崎雅彦会長ほか101名

当該分野の研究活動活性化と若手研究者の育成を目的として、研究会および部会を以下のとおり開催し、下記事項を実施した。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第20回	24.7.24	東京大学	9名	5件
第21回	24.12.14	高知コアセンター	5名	3件

構造部会：

第26回	24.12.20	東京大学本郷キャンパス	13名	
------	----------	-------------	-----	--

実施事項：

・新分野開拓のための調査派遣支援として、再生可能エネルギーの技術動向調査のため、若手技術者2名を All-Energy 2012, Melbourne に派遣

海洋環境研究会

会員：大塚耕司会長ほか73名

海洋環境の調査・保全・修復、海洋環境変動の評価・予測等に関する研究を推進・支援するため、海洋環境研究会を下記のとおり開催した（海洋工学研究会との合同部会）。

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第22回	24.7.24	東京大学	13名	5件
第23回	24.12.14	高知コアセンター	5名	3件

実施事項：

・新分野開拓のための調査派遣支援として、洋上風車に関する研究動向調査のため、若手技術者1名を European Wind Energy Association annual event 2013 (EWEA 2013) に派遣

情報技術研究会

会員：大和裕幸会長ほか42名

目的：造船の情報技術に関する調査研究

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第21回	24.6.25	東京大学	26名	2件
第22回	24.9.24-25	SHI-ME 横須賀	21名	3件
第23回	25.1.21-22	JMU 津	26名	3件

実施事項：

・P-26 プロジェクト研究委員会の成果を受けて、シンポジウム「次世代造船システムの構想に向けて」を開催(24.6.4)

6. 特別検討委員会

海洋基本法に基づく海洋基本計画の、5年目の見直しが内閣府で進められるのに合わせ、学会からの提言を理事会主導で検討し、海洋基本法戦略研究会の第5回会合(24.6.27)において大和副会長より発表した。この検討の過程で浮体式洋上風力発電に関する特別検討委員会を設けることが議論され、3回の準備会合を経て、浮体式洋上風力特別検討委員会（鈴木英之委員長）を平成25年度から設置し、浮体式風力発電の実用化に資することとした。

【5】国際学術協力

1. World Maritime Technology Congress (WMTC)

平成24年5月29日～6月1日に、ロシア・サンクトペテルブルクで開催された4th WMTC に深沢国際担当理事を派遣し、今後のWMTCの運営に関する議論等、学会連合活動を行った。

2. Pan Asian Association of Maritime Engineering Societies (PAAMES)

平成24年12月10日～12日に台湾・台北で開催された5th PAAMES/AMEC 2012 に谷口会長、深沢理事、中村庶務理事、小林事務局長を派遣し、PAAMES ISC および IPC Meeting に

おいて、メンバーシップに関する討議、今後の PAAMES の運営に関する議論、および Best Paper Awards の選考等、PAAMES 加盟の東アジア海事学協会の連携を深める活動を行った。

3. 韓国造船学会との覚書交換

平成24年12月11日に台湾・台北において、韓国造船学会 (SNAK) 趙会長・宋国際担当理事と、谷口会長・深沢理事ほかとの間で、今後の日韓の造船学会の協調活動に関する議論が行われた。その結果、相互の学術講演会においてジョイントセッションを設けることを平成25年度から始めることとし、それ以外の活動についても今後密接な連絡を取って、検討していくことで合意した。

4. RINA との共同シンポジウムに関する合意

英国造船協会 (RINA) と電子メールによる協議の結果、平成25年10月28日～30日、東京において共同シンポジウム & 第3回世界船舶海洋工学フォーラム (World NAOE Forum 2013 & International Symposium on Marine and Offshore Renewable Energy) を共催することで合意した。

5. 国際対応

国際的な活動に対応するため下記の委員会を開催した。

(1) JTTC 委員会

ITTC (国際試験水槽会議) への対応および船舶性能に関わる調査研究を行った。

委員数：柏木正委員長ほか31名

委員会の開催状況：

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第20回	24.6.27	防衛大学校	17名	9件
第21回	24.10.17	阪大中之島センター	16名	9件
第22回	25.1.31	海上技術安全研究所	19名	10件

実施事項：

- ・第27期 ITTC 実施内容ならびに進捗状況の確認
- ・EEDI に関する ITTC-AC 委員会の対応の検証

(2) JSSC 委員会

ISSC (国際船舶海洋構造会議) への対応および船体構造と安全性に関わる調査研究を行った。

委員数：藤久保昌彦委員長ほか20名

回	期日	場所	出席者数	発表件数
第21回	24.5.17	神戸市産業振興センター	18名	13件

実施事項：

- ・ISSC 2012 技術委員会に関する情報交換
- ・第18回 ISSC 2012 (ドイツ) への参加と討議

【6】シンポジウム等の開催

1. シンポジウム「次世代造船システムの構想に向けて」

期日：平成24年6月4日

場所：東京大学工学部講堂 (東京)

情報技術の革新が目覚ましく進む中で、次世代の造船情報システム、情報技術戦略はいかにあるべきかを検討した P-26 プロジェクト研究委員会の成果発表と、共有化の議論が活発に行われた。参加人数：78名、講演8件

2. 第23回海洋工学シンポジウム

期日：平成24年8月2日～3日

場所：日本大学駿河台キャンパス

共催：日本海洋工学会

東日本大震災・津波の影響、震災からの復興を基調に、海洋再生可能エネルギー、海底資源、海洋空間利用など多様な分野で多数の論文が発表された。

参加人数：243名、基調講演3件、発表論文100件

3. World NAOE Forum 2012, "All Aspects of LNG Fuel for

Ships'

期日：平成 24 年 10 月 29 日

場所：ホテルオークラ福岡（福岡市）

第 2 回目となる世界船舶海洋工学フォーラムは、環境負荷低減効果が期待される LNG 燃料船をテーマとし、内外の技術者・研究者・関係者が多数参加して議論した。

参加人数：208 名（内、海外から 13 名）、基調講演 1 件、ガス焚き機関・LNG 燃料船の設計・LNG 燃料供給の 3 分野での講演 9 件と討議、ポスターコンテストおよび若手事前勉強会

【7】後援および協賛

表1-3のとおり関連学協会の講演会・シンポジウム等に後援を行った。また、56件の協賛を行った。

表1-3 後援

期日	名 称	主 催	開催場所
6.22	東日本大震災を踏まえた原子力発電プラントの健全性評価の現状に係る国内シンポジウム	日本溶接協会	東京溶接会館
8.24	熱切断作業の品質と安全講習会	日本溶接協会	東京溶接会館
11.27 ～28	原子力構造機器の材料、設計、施工、検査、維持に関する講習会	日本溶接協会	東京溶接会館
11.29	Techno-Ocean 2012	テクノオーシャン・ネットワーク	神戸国際会議場
H25.5 23-25	BARI-SHIP 2013	UBM ジャパン	テクスポート今治

【8】支部活動

1. 東部支部

会員および広く公益に資する目的で、海事関連の最新テーマに関するワークショップを2回開催した。また構造に係る技術者・研究者の研鑽のため構造研究会を実施した。

(1) 第1回東部支部ワークショップ

「洋上風力発電の洋上施工と作業船」

期日：平成 25 年 1 月 29 日

場所：東京海洋大学 越中島会館 講堂

参加人数：174 名（内、非会員 111 名）、講演：7 件、懇親会 66 名

(2) 第2回東部支部ワークショップ

「船舶からの温室効果ガス削減対策(EEDI 等)の現状と船舶設計の将来」

期日：平成 25 年 2 月 15 日

場所：東京大学生産技術研究所 コンベンションホール

参加人数：74 名（内、非会員 22 名）、講演：5 件、パネル討論、懇親会 37 名

(3) 東部支部構造研究会

回	期日	場所	出席者数	講演数
第 28 回	24.4.10	JAXA	31 名	4 件
第 29 回	24.7.10	SHI-ME	30 名	4 件
第 30 回	24.10.23	日本海事協会	30 名	4 件
第 31 回	25.1.16	JMU 本社	30 名	4 件

2. 関西支部

(1) 特別講演会

題目：菱垣廻船復元の歴史的考証（安達裕之海事史学会会長）

期日：平成 25 年 1 月 25 日

場所：神戸クリスタルホール（神戸市）

出席者：46 名

(2) シンポジウム等

・支部講演会「菱垣廻船から世界のヨット研究まで、その帆走性能と船体構造を学ぶ」

期日：平成 24 年 12 月 14 日

場所：なにわの海の時空館会議室 出席者：75 名

省エネ技術としても注目されている帆船の歴史から最近の話題まで、幅広く学ぶ機会を提供した。

・シンポジウム「浮体式風力発電を考える」

期日：平成 25 年 3 月 21 日

場所：新大阪丸ビル別館 出席者：58 名、講演 4 件

浮体式洋上風力発電に関しての造船業界に対する期待や問題点を、最新の情報とともに共有する機会を提供した。

(3) KFR（関西船舶海洋流体力学研究会）

第 317 回例会（平成 24 年 6 月 1 日）

場所：大阪大学中之島センター 出席者：23 名

第 318 回例会（平成 24 年 12 月 14 日）

場所：なにわの海の時空館会議室 出席者：75 名

第 319 回例会（平成 25 年 2 月 4 日）

場所：大阪大学中之島センター 出席者：11 名

第 320 回例会（平成 25 年 3 月 29 日）

場所：大阪大学中之島センター 出席者：42 名

(4) KSSG（関西船体構造研究会）

第 1 回（平成 24 年 6 月 6 日）

場所：新大阪丸ビル 出席者：16 名

第 2 回（平成 24 年 10 月 10 日）

場所：川崎重工業 出席者：22 名

第 3 回（平成 24 年 12 月 17 日）

場所：新大阪丸ビル 出席者：16 名

第 4 回（平成 25 年 1 月 31 日）

場所：新大阪丸ビル 出席者：19 名

第 5 回（平成 25 年 2 月 28 日）

場所：関西設計㈱ 出席者：22 名

3. 西部支部

(1) 西部支部シンポジウムの開催

「船舶に於けるバラスト水処理に関するシンポジウム」

実船搭載事例が出始めたバラスト水処理装置にかかわる知見と問題点を共有、討議することを目的として開催し、活発な質疑応答が行われた。

期日：平成 25 年 3 月 11 日

場所：九州大学西新プラザ

参加人数：69 名、講演：10 件、パネル討論、懇親会 47 名

(2) 西部支部構造研究会

回	期日	場所
第 22 回	24.5.22	パピヨン 24 オフィス（福岡市）
第 23 回	24.9.19	下関市海峡ホール（下関市）
第 24 回	25.1.22	千光寺山荘（尾道市）

II 啓発・広報事業

【1】能力開発センター

1. 能力開発センター運営委員会
委員数：大和裕幸委員長ほか5名
能力開発センターを構成する技術者資格支援委員会、CPD委員会、大学等教育支援委員会、教科書編纂委員会の活動を推進した。

2. 技術者資格支援委員会
委員数：八木光委員長ほか1名
技術士補（技術士第1次試験）の資格取得のための講習会を開催した。技術士一次試験の専門科目（機械とシステム、浮体の力学、計測・制御、材料・構造）について4名の講師による講習を行った。

期日：平成24年5月31日～6月1日

場所：東京桜田ビル会議室

後援：日本マリンエンジニアリング学会、日本造船工業会

参加人数：12名

3. CPD委員会

委員数：新宅英司委員長ほか4名

継続的能力開発（CPD）ポイント蓄積システムの運用を行い、運営効率を改善するためシステムの見直しを行った。またCPDポイント制度の普及に努めた。

4. 大学等教育支援委員会

委員数：鈴木英之委員長ほか6名

日本技術者教育認定機構（JABEE）の動きに対応し、船舶海洋系大学の教育プログラムの、JABEE認定に向けた支援を行った。

5. 教科書編纂事業

委員数：池田良徳委員長ほか

平成23年度までに作成した原稿を基に「船舶海洋工学シリーズ」の第2回配本として、船体運動（操縦性能編、耐航性能編）、船体構造（強度編）、造船工作法、船体機装工学の5冊を出版した。また全12冊のシリーズ完成にむけ残る4冊（船体構造-振動編、船体運動-耐航性能入門編、船舶性能設計、海洋構造物）の出版準備を進めた。出版された8冊については、大学教育や造船技術者社会人教育のテキストとして有効に活用されている。

6. 造船技術者社会人教育

日本造船工業会、日本中小型造船工業会と共催し、若手造船技術者の実務に役立つ実践的な教育のため、造船技術者社会人教育（第12回）を実施した。全11コースに応募のあった289名の若手技術者に、専門技術教育を行った。

【2】若手研究者海外派遣事業

平成23年度に実施した若手研究者・技術者海外調査派遣事業に関して、海外派遣報告会を平成24年度秋季講演会において開催した。

日時：平成24年11月26日（月）13:40～14:40

場所：東京大学柏キャンパス総合研究棟、発表者：3名

なお、船舶・海洋工学分野における研究活動の促進や交流ネットワークの構築など、より実効性のある新たな海外共同研究促進事業の立ち上げを目指し、平成24年度の若手研究者・技術者の海外派遣は休止とした。

【3】海洋教育推進活動

1. 海洋教育推進委員会

委員数：小林正典委員長ほか47名

(1) 委員会の開催

運営委員会、WG戦略会議、支部委員会、フォーラム実行委

員会を下記のとおり開催し、以下について審議した。

- ・海洋教育推進委員会の運営方針
- ・海洋教育フォーラム、海洋教育セミナーの計画・実施

期日	委員会名	出席者数
24.7.18	第9回運営委員会	6
24.7.18	全体委員会	19
24.11.30	第10回運営委員会	6
24.11.30	第2回WG戦略会議	11
25.1.10	フォーラム実行委員会	8
25.2.22	第11回運営委員会	6
25.2.22	第3回WG戦略会議	10
25.3.11	フォーラム実行委員会	8

(2) 海洋教育フォーラムと海洋教育セミナーの開催

・第2回関西支部海洋教育セミナー

期日：平成24年6月8、9日

場所：徳島大学常三島キャンパス

プログラム：講演5件 参加者数：40名

・第7回東部支部海洋教育セミナー

「産・官・学の若年層への普及啓蒙活動 海洋教育活動における現状の問題点と今後の課題」

期日：平成24年7月18日

場所：東京海洋大学品川キャンパス白鷹館

プログラム：講演10件 参加者数：19名

・第3回西部支部海洋教育セミナー

「船舶海洋関連大学間交流会」

期日：平成24年10月6、7日

場所：新来島どつく大西工場

プログラム：研究交流会、造船所見学会 参加者数：103名

・第4回海洋教育フォーラム

「みんなで海を知ろう！！海のエネルギーを電気に変える」

期日：平成25年3月23日

場所：東京海洋大学越中島キャンパス越中島会館

プログラム：講演6件 参加者数：171名

一般新聞の紙面に開催広告を掲載し、幅広い市民層への周知を図った。

(3) 海洋教育に関する広報活動

- ・海洋教育に関するイベントの紹介記事を学会誌に掲載した。
- ・海洋教育イベント情報をホームページに掲載した。
- ・「海の不思議箱」のコンテンツを追加・充実した。

(4) 海洋教育に関する企画

- ・実習船の利用に関連する海洋教育を調査した。
- ・海洋教育教材集第3巻を発行した。また、多くの教材を提供している海の自然史博物館へのヒアリング調査を行った。
- ・博物館、水族館等における海洋教育の実施についてアンケート調査を行った。
- ・国立科学博物館の2012夏休みサイエンススクエアにおいて、海と船の工作ひろば「船の進む向きはどう変えるのかな？」を実施した。
- ・地域支援コーディネーター育成事業の一環として、教育支援フォーラムに資料を出展した。

2. 青少年啓蒙活動

(1) 東部支部おもしろ船教室

期日：平成24年8月12日

場所：横浜港、横浜シンポジア

参加者数：109名
 プログラム：港内遊覧船マリーンシャトル（764GT）
 による横浜港内見学，実験を主体とした講演

(2) 西部支部夏休みおもしろ船教室

期日：平成24年8月25日
 場所：長崎総合科学大学
 参加者数：46名
 プログラム：プレジャーボート操船体験，
 ペーパークラフト制作教室

(3) その他啓蒙活動

- そのほか下記の活動を共催・後援した。
- 海技大学校「海技丸」体験航海と講演会（24.7.22, 8.3）
 - 神戸大学体験型海洋セミナー「海と船に親しむ！体験航海，深江丸」（24.8.21-22）
 - Techno-Ocean 2012水中ロボット競技会（24.11.18）
 - '12水中ロボットコンベンション in JAMSTEC（24.9.1-2）
 - 津波の海洋実験教室 所沢（24.5.12）

3. 一般向け講演会の開催

表2-1のとおり造船系9大学にて小学生から高校生を含む一般向けの講演会等を開催した。本事業は日本造船工業会より補助金を受けた。

表2-1

大学	開催日/場所	参加者
東京大学	平成24年11月18日 東京夢の島マリーナ	40
東京海洋大学	平成24年9月29日 クローバー橋	50
	平成24年11月11日 越中島キャンパス	40
横浜国立大学	平成24年7月16日 横浜国立大学キャンパス	75
	平成24年8月25日 横浜国立大学キャンパス	70
東海大学	平成24年7月7, 8日 静岡県エコパアリーナ	多数
大阪大学	平成25年3月2日 兵庫県立龍野高等学校	14
		兵庫県立相生高等学校
広島大学	平成24年8月6日 山口県セミナーパーク	120
	平成25年2月15日 高松第一高等学校	120
	平成25年3月2日 岩国高校	40
九州大学	平成24年5月13日 伊都キャンパス	266
	平成24年8月11日 福岡県糸島市加布里公民館	24
長崎総合科学大学	平成24年4月28, 29日 長崎港（出島ワーフ）	894

4. 夏の学校

2泊3日で，性能・運動分野および構造強度・材料溶接分野の専門家に講義を依頼し，若手技術者の専門教育の充実，および交流を促進する「夏の学校」を以下のように開催した。

(1) 性能・運動分野

期日：平成24年8月31日～9月2日
 場所：湘南セミナーハウス（神奈川県）
 参加者数：41名

プログラム：特別講義3件，基礎講義2件

(2) 構造強度・材料溶接分野

期日：平成24年8月27～29日
 場所：野呂高原ロッジ（広島県）
 参加者数：37名
 プログラム：講義8件

【4】会誌発行

会員および広く一般に海事関連の最新情報を提供し，また学会活動を広報・周知するため，学会誌「KANRIN」を隔月に発行した。

1. 学会誌編集委員会

委員数：戸澤秀委員長ほか57名

- 会誌発行の全体計画および調整のため下記の幹事会を開催した。

回	期日	場所	出席者数
第30回	24.9.26,27	東大セミナーハウス	9
第31回	24.12.17	日本船舶海洋工学会	10
第32回	25.3.22	日本船舶海洋工学会	8

- 特集等の企画・編集のため，各支部単位の編集委員会を随時開催した。

- 会誌「KANRIN」第42号～第47号を各支部編集委員会の分担により編集し，発行した。

2. 刊行

日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」第42号から第47号までの6冊を表2-2のとおり刊行し会員に配布した。

表2-2 日本船舶海洋工学会誌「KANRIN」発行

会誌・号・発行月	本文頁数	発行部数
KANRIN 第42号（平成24年5月）	67	5,150
KANRIN 第43号（平成24年7月）	129	5,100
KANRIN 第44号（平成24年9月）	71	5,100
KANRIN 第45号（平成24年11月）	48	5,100
KANRIN 第46号（平成25年1月）	77	5,050
KANRIN 第47号（平成25年3月）	72	5,100
計	464	30,600

【5】電子情報サービス

会員をはじめとする国民一般への広報・情報発信として，学会ホームページの管理運用を行った。また会員の利便性向上の一環として，会員サイトのアーカイブ情報の充実を図った。

1. 情報管理委員会

委員数：小柴幸雄委員長ほか3名

下記のとおり5回の情報管理委員会を開催し，主としてホームページの運用に関する審議を行った。

回	期日	場所	出席者数
第1回	24.4.16	日本船舶海洋工学会	7
第2回	24.7.2	日本船舶海洋工学会	8
第3回	24.10.18	日本船舶海洋工学会	7
第4回	24.12.18	日本船舶海洋工学会	7
第5回	25.3.19	日本船舶海洋工学会	7

2. 主な実施事項

- 日本船舶海洋工学会ホームページの企画・管理・運用
- メールニュースNo.122～154の発行
- 会員サイトのコンテンツの追加・充実
- イベント受付フォームの改修
- ホームページの維持管理要領の検討と文書化

【6】褒賞

日本船舶海洋工学会細則第33条から36条にもとづき，学会

賞，船舶海洋技術賞等を授与した。

1. 平成24年度春季講演会において，表2-3 のとおり日本船舶海洋工学会賞・日本造船工業会賞・日本海事協会賞を授与した。
2. 平成24年度春季講演会において，第36回船舶海洋技術賞(吉識賞)が中武一明君に授与された。
3. 平成24年度春季講演会において，表2-4のとおり日本船舶海洋工学会奨励賞(乾賞)を授与した。
4. 平成24年度春季講演会において，表2-5 のとおり日本船舶海洋工学会賞(著書・開発等)を授与した。

表 2-3 論文賞

<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞 日本海事協会賞</p> <p>論文名：製品情報の不確定性を考慮した 船舶主要目設計支援システムに関する研究</p> <p>受賞者：濱田 邦裕 (広島大学)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本造船工業会賞</p> <p>論文名：Single- and multiobjective design optimization of a fast multihull ship: numerical and experimental results</p> <p>受賞者：田原 裕介 (海上技術安全研究所)</p>
<p>日本船舶海洋工学会賞 日本海事協会賞</p> <p>論文名：上昇する錨鎖の横振動について</p> <p>受賞者：田中 進 (広島大学)，平田 法隆 (広島大学) 半田 晃士 (常石造船)，関 広史 (常石造船)</p>

表 2-4 奨励賞 (乾賞)

<p>論文名：階層型強化学習を用いた鋼板ストックヤードにおける 鋼板搬出作業のプランニング</p> <p>受賞者：白石 耕一郎 (海上技術安全研究所)</p>
<p>論文名：A consideration on drag reduction by air lubrication using integral type boundary layer computation</p> <p>受賞者：Hoang Cong Liem</p>

表 2-5 著書・開発・発明賞

<p>日本船舶海洋工学会賞</p> <p>著書：「海洋構造力学の基礎」</p> <p>受賞者：吉田 宏一郎 (東京大学名誉教授)</p>
<p>開発：「ハイブリッド過給機を用いた船内電源供給システムの 開発」</p> <p>受賞者：堀内 主計 (日本郵船)，後藤 宏雅 (ユニバーサル造船)，白石 啓一 (三菱重工業)，信原 真人 (MTI)</p>

表 2-8 奨学褒賞 (高等学校)

学校名	受賞者
山口県立下関中央工業高等学校	谷川 祐太
高知県立須崎工業高等学校	高橋 広樹
長崎県立長崎工業高等学校	黒澤 央

表 2-6 奨学褒賞 (大学，大専)

学校名，学科名	受賞者
東京大学 工学部システム創成学科 大学院工学系研究科システム創成学専攻 大学院新領域創成科学研究科	川田 樹 金光 慶紘 孫 晶鈺
横浜国立大学 工学部建設学科 大学院工学府システム統合工学専攻	野間 慧 一ノ瀬 寛太
東京海洋大学 海洋工学部海事システム工学科 海洋工学部海洋電子機械工学科 海洋工学部流通情報工学科 海洋科学技術研究科海運ロジスティクス専攻	熊谷 慧 杉本 俊輔 藤川 慶央 高木 俊典
神戸大学 海事科学部海事技術マネジメント学科 海事科学部海洋ロジスティクス科学科 海事科学部マリンエンジニアリング学科 海事科学研究科	田中 淳 見崎 豪之 中林 編絹 花田 研太
大阪大学工学部 地球総合工学科船舶海洋工学科目 大学院工学研究科地球総合工学専攻	井上 恵太 南 有祐
大阪府立大学工学部 海洋システム工学科 大学院工学研究科航空宇宙海洋系専攻	梅田 隼 塚原 洋平
東海大学海洋学部 船舶海洋工学科	アミヤ・シヤサ・ウチ・ヒンタイ・アブ ド・ウラ・ラム
広島大学工学部 第四類輸送機器環境工学プログラム 大学院工学研究科輸送環境システム専攻	徳永 紘平 濱崎 透
九州大学工学部地球環境工学科 船舶海洋システム工学コース 大学院工学府海洋システム工学専攻 総合理工学府大気海洋環境システム学専攻	佐藤 広基 新川大治朗 松本 聖馬
長崎総合科学大学工学部船舶工学科	中野 賢生
海上保安大学校 本科第一群 本科第二群	松本 裕樹 入澤 優磨
海技大学校 海上技術コース (航海)	岩下 はるか

表 2-7 奨学褒賞 (商船高等専門学校)

学校名	受賞者
弓削商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	渡邊 司 久保 翔
大島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	村上 麻衣 木村 哲也
富山高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	井上 穂高 了舟 隼人
鳥羽商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	西村 忠洋 後藤 俊樹
広島商船高等専門学校 商船学科 航海コース 商船学科 機関コース	住本 幸也 堀本 亜弓

5. 船舶海洋系大学および大学院（修士課程）の卒業者の中から成績優秀な者に表 2-6 のとおり、奨学褒賞を授与した。
6. 商船高等専門学校等の卒業者の中から成績優秀な者に表 2-7 のとおり、奨学褒賞を授与した。
7. 工業高等学校の卒業者の中から成績優秀な者に表 2-8 のとおり、奨学褒賞を授与した。

【7】シップ・オブ・ザ・イヤー2011

毎年日本で建造された船舶の中から、技術的・芸術的・社会的に優れた船を選考して表彰するシップ・オブ・ザ・イヤーの22回目となるシップ・オブ・ザ・イヤー2011を選定した。

平成24年6月5日、応募作品の発表会と選考会が実施され、選考委員会において下記作品が各賞に選定された。平成24年7月25日に開催された海事三学会合同表彰式（海運クラブ）において、受賞作品の表彰式を行った。

- ・シップ・オブ・ザ・イヤー2011：TØNSBERG
- ・小型貨物船部門賞：よね丸
- ・小型客船部門賞：awaline きらら

【8】広報活動

船舶海洋工学に関係するシンポジウムやワークショップにおいて、学会紹介パンフレットを配布し、広く学会活動の広報を行った。

【9】支部活動

1. 東部支部
 - (1) 若手研修・意見交換会

幹事会を開催し、学会内外の広い関連分野で活躍する若手のネットワーク形成の方策について議論し、企画案を作成した。

期日：平成25年2月20日および3月22日

場所：東京大学 本郷キャンパス
 - (2) メールニュースの発行

支部メールニュース No.39～40号を発行した。
2. 関西支部
 - (1) 若手技術者研修会

委員数：長谷川会長以下10名

第1回見学および講演

期日：平成24年6月19日、出席者：8名

場所：川重車両カンパニー兵庫工場・川崎重工業海友館新館

第2回見学および講演

期日：平成24年6月20日、出席者：8名

場所：キャタピラージャパン明石事業所・川重海友館新館

第3回見学

期日：平成24年9月13日、出席者：8名

場所：今治造船丸亀事業本部・川崎重工業坂出工場

第4回見学

期日：平成24年10月23日、出席者：8名

場所：ユニバーサル造船津事業所・本田技研工業鈴鹿工場

第5回見学

期日：平成24年11月22日出席者：7名

場所：サノヤス造船水島製造所・三井造船玉野工場

第6回見学

期日：平成25年1月25日、出席者：8名

場所：JMU アムテック、ディーゼル・ユナイテッド相生

(2) 造船資料保存委員会

委員数：内藤委員長以下27名

第1回（平成24年12月20日）

場所：神戸大学海事科学部 出席者：15名

(3) 関西シニア海事研究会

研究会総会

期日：平成24年7月19日

場所：神戸クリスタルホール 出席者：50名

(4) 支部長賞

・支部長賞

三井造船株式会社玉野事業所

「TSLによる東日本大震災支援活動」

柏木正(大阪大学)

「夏の学校」の創設

関西シニア海事研究会教育支援グループ

「海事関係の教育支援グループ活動」

(5) セミナー・講習会

・見学会（平成24年11月4日）

場所：神戸港 航海訓練所訓練船 大成丸

参加者：24名

・海事産業説明会

期日：平成24年12月8日 場所：大阪産業創造館

題目：日本の造船業の現状と今後の課題

就職希望の学生向けに海事産業説明会を開催した。

参加者：171名 参加団体：17団体

(6) 海岸清掃

期日：平成24年10月7日

場所：神戸市須磨海岸 参加者：13名

(7) 学生会員募集

学生会員勧誘のための学会紹介パンフレットを製作し、学生会員の拡大を図った。

3. 西部支部

(1) 船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞

第4回西部支部運営委員会にて4件の応募の中から投票により船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞を2件選出した。

受賞者：岩本才次、北村充

(2) 広報編集委員会

回	期日	場所
第17回	24.5.30	九州大学創造パビリオン
第18回	24.11.15	九州大学創造パビリオン

このほか随時、電子メールにより学会誌の企画・編集に関わる件およびメールマガジンに関わる件を審議した。

(3) 電子情報委員会

メールによる連絡で関連課題の審議を行った。

(4) 広報活動など

メールマガジン第41号～第46号を配信した。

III 事務報告

【1】会合

1. 定時総会

平成24年度（第117期）日本船舶海洋工学会定時総会を出席者74名(内書面による議決権行使58名, 定足数44名)のもとに下記のとおり

り開催し、平成23年度（第116期）事業報告（報告事項）および収支決算報告を審議して可決した。

期日：平成24年6月5日 13:00～14:00

場所：学士会館（東京都千代田区）

議事：

- 1) 平成23年度（第116期）事業報告、決算報告

2. 理事会

平成24年度（第117期）第1回 定例理事会

日時：平成24年5月15日 13:30～17:30

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事14名、監事3名、事務局2名

欠席：理事1名

主要議事：

- (1) 平成23年度事業報告および決算報告の審議
- (2) 平成24年度事業計画および収支予算の修正
- (3) 大震災からの復興と備えに関する提言の審議
- (4) 海洋基本計画見直しに対する提言の審議

平成24年度（第117期）第2回 定例理事会

日時：平成24年7月26日 9:30～12:30

場所：日本船舶海洋工学会 会議室

出席：理事12名、監事3名、事務局1名

欠席：理事3名

主要議事：

- (1) プロジェクト研究委員会の新設に関する審議
- (2) 代議員選挙の実施予定に関する審議
- (3) 内規改訂の審議

平成24年度（第117期）第3回 定例理事会

日時：平成24年9月21日 11:00～17:00

場所：中央電気倶楽部 会議室

出席：理事13名、監事2名、事務局1名

欠席：理事2名、監事1名

主要議事：

- (1) 代議員選挙の実施に関する審議
- (2) 終身会員に関する細則改定の審議
- (3) 内規改定の審議
- (4) 研究委員会の新設と強化に関する審議
- (5) RINA 共催シンポジウムに関する審議
- (6) 業務執行理事の報告

平成24年度（第117期）第4回 定例理事会

日時：平成24年11月16日 13:30～17:00

場所：福岡センタービル 会議室

出席：理事13名、監事2名、事務局1名

欠席：理事2名、監事1名

主要議事：

- (1) 平成24年度中間決算に関する審議
- (2) 細則および内規の改定に関する審議
- (3) World NAOE Forum 2013 およびシンポジウム開催計画に関する審議

平成24年度（第117期）第5回 定例理事会

日時：平成25年1月18日 10:30～17:00

場所：日本海事協会名古屋支部 会議室

出席：理事11名、監事1名、事務局1名

欠席：理事4名、監事2名

主要議事：

- (1) 平成25年度事業計画および予算に関する審議
- (2) 細則および内規の改定に関する審議
- (3) 新規研究委員会設置に関する審議
- (4) 終身会員の推薦
- (5) 浮体式洋上風力特別検討委員会に関する審議

平成24年度（第117期）第6回 定例理事会

日時：平成25年3月15日 13:00～17:00

場所：中央電気倶楽部 会議室

出席：理事13名、監事2名、事務局1名

欠席：理事2名、監事1名

主要議事：

- (1) 平成25年度事業計画および予算に関する審議
- (2) 次期役員候補者に関する審議
- (3) 平成25年学会賞および船舶海洋技術賞の承認
- (4) 功労会員の推薦
- (5) 業務執行理事の報告

【2】会員の異動

1. 会員数推移

平成25年3月31日現在、会員総数は個人会員4,509名、賛助会員149団体、計4,658となった（表3-1）。個人会員、賛助会員および会費収入の減少傾向への対応策を種々検討し、終身会員等の資格要件の見直しを行った。

表3-1 会員数推移

種別	前期末 (平成24年 3月31日)	当期末 (平成25年 3月31日)	減員	増員	増減
正会員	4,173	4,194	157	178	21
(内名誉会員)	(36)	(38)	1	3	2
(内功労会員)	(55)	(55)	3	3	0
(内終身会員)	(902)	(937)	31	66	35
(内シニア会員)	(105)	(100)	25	20	-5
学生会員	324	313	114	103	-11
賛助会員 特級	19	18	1	0	-1
1級	10	9	1	0	-1
2級	11	11	0	0	0
3級	114	111	5	2	-3
個人	1	2	0	1	1
合計	4,652	4,658	278	284	6

2. 名誉会員・功労会員の推薦

平成24年6月5日定時総会にて下記の3名が名誉会員に推薦された。

角 洋一 橋本 博之 宮田 秀明

また下記の3名を功労会員に推薦した。

大沢 直樹 西尾 茂 藤本 由紀夫

3. 終身会員の推薦

第5回理事会において下記66名の終身会員への推薦が承認された。

川上 治男	柏谷 達男	長谷川道雄	森 俊哲
矢島 久義	伊藤 仁	杉本 健	濱田 孝一
浅野 利夫	津田 義憲	長尾 俊二	土岐 直二
鷺尾 祐秀	副島 俊二	平松 吉忠	浅海 友弘
石橋 賢論	青柳 彰	飯本 弘一	高 允宝
橋爪 豊	小野塚正一	仁科 憲二	三上 郁夫
小保方 準	佐藤 隆一	永田 憲夫	寺本 定美
諸星 喜義	渡辺 喜保	高田 光芳	上田 耕平
田中満佐人	田淵 寛	加来 惟命	角田 二郎
珠久 正憲	金田 重裕	高橋 憲二	菅 稔
坂本 聰紀	井上 浩	山崎正三郎	河野 一
加戸 正治	屋鋪 一樹	富田 正和	小松 正彦
庄司 邦昭	羽田 知所	林 佳之	岩崎 民義
白木 東	増山 和雄	金 裕哲	山名 俊茂

松村 純一 浅井 滋 小川 桂三 谷口 友一
桜井 謙一 神崎 誠志 落合 諒 島本幸次郎
近藤 潔 飯内 捷之

【3】委員の委嘱

下記のとおり新たに委員を委嘱した。

1. 海洋教育推進委員会
小林正典, 田代省三, 岩下英嗣, 箕浦宗彦, 土井康明, 居駒知樹, 川内浩, 福盛正二
2. 論文審査委員会査読委員
塚本達朗, 岡田博, 田中進, 福戸淳司, 土橋律, 山本茂広, 宮元慎一, 渋谷唯司, 宇都宮智昭, 早稲田卓爾, 三上隆, 遠藤久芳, 勝井辰博
3. 学会誌編集委員会
神田敦志, 日向泰彦, 新原慶弘, 山元康博, 松田識史, 青野 健, 多羅尾保充, 浪越正至, 古木修二, 池田精一, 須藤康広, 古木修二
4. 講演会実行委員会
江崎敏之, 平林紳一郎
5. 能力開発センター大学教育等支援委員会
遠山泰美
6. 研究企画委員会
同, 分野研究企画部会 (工作)
大谷博信, 池田渉, 山本欽司
7. 研究委員会

P-35 船体構造強度評価のための荷重推定手法の高度化に関する研究委員会

深沢塔一, 小川剛孝, 藤久保昌彦, 高木健, 飯島一博
桃木勉, 小早川広明, 三上隆, 山田安平, 朱庭耀

P-36 船舶の消火設備設計指針改訂研究委員会

荒井誠, 大橋徹也, 稲垣秀彦, 吉永浩志, 石山直, 越智宏

P-37 海中システム技術・海洋環境管理技術に関わる震災・津波・原発事故の復旧・復興支援と防災に関する研究委員会

加藤直三, 鈴木博善, 有馬正和, 中谷直樹, 浅川賢一,
坂上憲光, 清水悦郎, 田中敏成, 多部田茂, 巻俊宏, 佐藤徹,
吉江宗生, 松廣紀夫, 大塚耕司, 中村昌彦, 高田洋吾, 川村貞夫,
小原敬史, 北澤大輔, 今井康貴, 村井基彦, 千賀英敬, 熊谷道夫

P-38 JSQSが定める品質標準の現状調査研究委員会

青山和浩, 後藤浩二, 大沢直樹, 瀬戸武雄, 町田定信
野元隆洋, 佐藤和彦, 河辺喬, 小出剛史, 久家雅光, 広瀬次郎,
松森孝太, 楠山政一, 松本暁, 谷口大典, 梅原明人,
土居建一, 豊田一暁, 榎正靖之, 今里成一郎, 伊達正敬, 成松久雄,
工藤由弘, 泉耕広, 近藤学, 山口忠則, 植松秀明, 中井誠,
野口千年, 安達康浩, 大谷博信, 水口直, 栗田芳郎, 濱田雄二,
東英司, 中山祐蔵

P-39 居住区的设计指針研究委員会

荒井誠, 柴田文彦, 井上義行, 福地信義, 田中進, 内野栄一郎,
植村卓司, 越智宏, 鈴木幹久, 中村千春, 松尾和昭
三好香里, 藪田栄二, 笠原菜奈未, 村上富男, 西周直紀, 河上伸一

P-40 船舶3D製品情報の共有と高度利用のための標準フォーマットの策定研究委員会

濱田邦裕, 大和裕幸, 青山和浩, 稗方和夫, 竹澤晃弘, 梶原宏之,
木村元, 松尾宏平, 安藤英幸, 佐々木吉通, 尾崎雅, 中尾洋一,
平山隆男, 平木常正, 松野二郎, 中野宏紀, 国貞泰介,
黒龍英之, 登川康則, 浜田信郎, 長野元睦, 伊藤圭司, 藤原浩二,
竹藪直紀, 松尾稔, 中尾幸, 伊藤健

S-10 調和化船体構造規則 (H-CSR) 研究委員会

藤久保昌彦, 柳原大輔, 飯島一博, 大沢直樹, 小川剛孝, 川村恭己,
高木健, 田中義照, 深沢塔一, 吉川孝男

S-11 我が国の海洋産業に関する戦略検討委員会
高木健, 飯島一博, 吉川孝男, 藤久保昌彦, 大塚耕司,
濱田邦裕, 佐藤徹

【4】補助金等

当会の諸事業に対する助成として以下の補助金や寄付金を受領した。

1. 日本学術振興会科学研究費補助金
1) 英文論文誌 (JMST) 刊行 (補助金200万円)
2. 業界補助金
1) 当会の諸事業に対する補助金
日本造船工業会より 175万円
日本海事協会より 40万円
2) 一般向け講演会活動費
日本造船工業会より 150万円
3) 世界船舶海洋工学フォーラムの開催支援金
日本海事協会より 400万円
ABS,BV,DNV,GL,LRより 各20万円
3. 寄付金
1) 個人からの寄付金
乾 章夫 20万円
その他4名 3万8千円

【5】関連団体との協力

1. 日本学術会議
日本学術会議が主催する講演会等に共催した。
2. 日本工学会
CPD協議会の運用等に関連して日本工学会の事業に協力した。
また, 事務研究委員会の活動に参画した。
3. 日本造船工業会
造船技術者社会人教育の事業, 技術士資格に関わる講習会等で日本造船工業会と連携を図った。
4. 海事三学会
日本マリンエンジニアリング学会および日本航海学会との連携を目的として会長懇談会等を行った。また, シンポジウムの企画, 合同表彰式, 技術者支援事業等で連携を図った。
5. 機械系関連学協会
機械系学協会会長懇談会等に参加し, 関連行事に関する連携を図った。

【6】代議員選挙

代議員選挙管理委員会 (委員長: 角洋一) を設置し, 任期満了に伴う日本船舶海洋工学会代議員選挙の結果, 平成 25~26 年度の代議員は下記のとおり選出され, 平成 24 年 12 月 21 日 公示された。

栗飯原 周二	上入佐 光	杉岡 寛	馬場 信弘
青木 伊知郎	川越 美一	鈴木 和夫	濱田 邦裕
青山 和浩	河地 三郎	鈴木 克幸	日野 孝則
荒井 誠	河部 香	鈴木 英之	深沢 塔一
有坂 俊一	川村 恭己	瀬崎 良明	藤井 昭彦
安東 潤	川本 要次	高井 通雄	藤久保 昌彦
池上 国広	北村 充	高木 健	古川 芳孝
池淵 哲朗	経塚 雄策	高野 裕文	徳森 繁弘
石黒 剛	倉持 貴好	竹田 太樹	松本 光一郎
今出 秀則	呉 文雄	武正 文夫	松本 俊之
岩崎 泰典	後藤 浩二	田中 康夫	村上 彰男
岩下 英嗣	小林 英一	谷澤 克治	村川 英一

上田 直樹	小林 一也	田村 兼吉	安川 宏紀
大沢 直樹	佐久間 俊	坪川 毅彦	安澤 幸隆
大塚 耕司	櫻井 昭男	土井 康明	山内 豊
大坪 新一郎	佐藤 功	戸田 保幸	山口 悟
大庭 亮	塩谷 茂明	豊田 宗晴	山口 一
影本 浩	重見 利幸	中崎 正敏	山崎 哲生
柏木 正	柴崎 公太	並川 俊一郎	大和 裕幸
梶原 宏之	慎 燦益	西村 勝好	吉川 孝男
梶田 剛	新宅 英司	野瀬 幹夫	吉田 清隆

【7】規則

定例理事会において下記内規の改訂を決議した。

- ・代議員選挙実施内規
- ・役員選出内規
- ・日本船舶海洋工学会論文集及び論文審査委員会に関する内規
- ・出版委員会に関する内規
- ・講演会に関する内規
- ・船舶海洋技術賞に関する内規

【8】行政庁への提出

- 1) 平成24年6月21日付で内閣府に事業報告、収支決算書を含む下記を提出した。
 - ・平成23年度（第116期）事業報告等に係わる提出書類
- 2) 平成24年10月12日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・平成23年度（第116期）事業報告等に係わる提出書類の修正
- 3) 平成25年3月27日付で内閣府に下記を提出した。
 - ・平成25年度（第118期）事業計画
 - ・平成25年度（第118期）収支予算書
 - ・平成25年度資金調達及び設備投資の見込に関する書類

【9】支部会合

1. 東部支部
 - 定時総会
 - 期日：平成24年5月10日
 - 場所：日本海事協会東京支部会議室
 - 出席者：37名
 - 運営委員会
 - 委員数：大和裕幸支部長ほか14名
 - 第1回（平成24年5月10日）
 - 場所：日本海事協会東京支部会議室
 - 主要議事：
 - (1) 平成23年度 東部支部事業報告および収支決算報告
 - (2) 平成24年度 東部支部事業計画および予算
 - (3) 平成24年度 若手研修・意見交換会の企画
 - 第2回（平成24年7月13日）
 - 場所：学会会議室
 - 主要議事：
 - (1) 平成24年度 東部支部通常総会報告
 - (2) 秋季講演会の開催準備状況等
 - (3) 東部支部ワークショップ（運営委員会提案）の企画
 - 第3回（平成24年9月13日）
 - 場所：学会会議室
 - 主要議事：
 - (1) 代議員選挙管理委員の推薦
 - (2) 秋季講演会の開催準備状況
 - (3) ワークショップ（運営委員会提案）のテーマ選出
 - 第4回（平成24年11月9日）
 - 場所：学会会議室
 - 主要議事：

- (1) 平成25-26年度東部支部代議員候補者の確定
 - (2) 平成24年度会費未納者（会員資格喪失対象者）への対応
 - (3) 東部支部上半期収支状況報告
 - (4) 東部支部ワークショップ（運営委員会提案）の実施案
- 第5回（平成25年1月15日）

場所：学会会議室

主要議事：

- (1) 次期支部長・支部推薦理事候補者および支部監事候補者の選出について
- (2) 平成25年度 東部支部事業計画/・予算
- (3) 秋季講演会の開催報告

第6回（平成25年3月8日）

場所：学会会議室

主要議事：

- (1) 東部支部次期支部長、支部推薦理事候補者、支部監事選挙の結果
- (2) 平成24年度事業報告・決算報告の作成
- (3) 平成25年度 東部支部収支予算（修正案）
- (4) 次期運営委員の選出（委嘱）
- (5) 第1回、第2回ワークショップの開催報告

東部支部会務委員会

委員数：井上委員長ほか16名

支部長を補佐し、支部の運営に関する諸事項を実施した。

- 第1回（平成24年4月26日）
- 第2回（平成24年7月6日）
- 第3回（平成24年9月7日）
- 第4回（平成24年11月2日）
- 第5回（平成25年1月9日）
- 第6回（平成25年3月1日）

2. 関西支部

定時総会

期日：平成24年5月25日

場所：三菱重工神戸造船所

出席者：52名

商談委員会

委員数：瀬崎良明支部長以下55名

期日：平成25年1月25日

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：21名

主要議事：

- (1) 平成24年度事業進捗状況
- (2) 平成25年度事業計画(案)・予算(案)
- (3) 支部規則細則改定について

運営委員会

委員数：瀬崎良明支部長以下17名

第1回（平成24年4月13日）

場所：大阪大学 GSE コモンイースト 出席者：11名

主要議事：

- (1) 平成24年度事業計画・予算
- (2) 支部長賞
- (3) 支部規則細則改定案
- (4) 平成24年業務日程・業務所掌

第2回（平成24年5月25日）

場所：三菱重工神戸造船所 出席者：13名

主要議事：

- (1) 平成25/26年度役員・委員
- (2) デジタル造船資料館における著作権などへの対応

第3回（平成24年7月13日）

場所：大阪大学コモンイースト 出席者：13名

主要議事：

- (1) 支部規則改定について
- (2) 世界船舶海洋工学フォーラム
- (3) 平成 24 年度版「支部選挙および運営委員選出に関する手順書」
- (4) 平成 25/26 年度役員改選

第 4 回 (平成 24 年 9 月 7 日)

場所：中央電気倶楽部 出席者：13 名

主要議事：

- (1) 平成 25/26 年度商議員選挙
- (2) 平成 25/26 年度代議員選挙
- (3) 海事産業説明会
- (4) セミナー・講習会(航海訓練所練習船の見学)

第 5 回 (平成 24 年 10 月 12 日)

場所：中央電気倶楽部 出席者：11 名

主要議事：

- (1) 平成 25/26 年度商議員選挙開票結果
- (2) 平成 25/26 年度代議員候補者立候補および推薦について
- (3) 平成 24 年度中間報告
- (4) 平成 25 年度事業計画素案・予算素案
- (5) シンポジウム
- (6) 海事産業説明会
- (7) 特別講演会
- (8) 平成 25 年秋季講演会
- (9) 24..大阪湾フォーラム

第 6 回 (平成 24 年 12 月 7 日)

場所：中央電気倶楽部 出席者：12 名

主要議事：

- (1) 平成 24 年度予算進捗状況
- (2) 平成 25 年度事業計画案・予算案
- (3) 次期支部長・監事・支部推薦理事の選定
- (4) 新年特別講演会
- (5) 支部長賞
- (6) 平成 25 年秋季講演会

第 7 回 (平成 25 年 1 月 25 日)

場所：神戸クリスタルタワー 出席者：15 名

主要議事：

- (1) 平成 25 年度事業計画・予算
- (2) 次期支部長・監事および支部推薦理事
- (3) 次期役員候補の件

第 8 回 (平成 25 年 3 月 1 日)

場所：大阪大学コモンイースト 出席者：13 名

主要議事：

- (1) 平成 25 年度支部定時総会
- (2) 平成 25 年度業務日程・業務所掌
- (3) 海岸清掃

会務委員会

委員数：箕浦幹事以下 13 名

支部長を補佐し、支部運営に係わる諸事項を実施した。

- 第 1 回 (平成 24 年 4 月 13 日)
- 第 2 回 (平成 24 年 5 月 25 日)
- 第 3 回 (平成 24 年 7 月 13 日)
- 第 4 回 (平成 24 年 9 月 7 日)
- 第 5 回 (平成 24 年 10 月 12 日)
- 第 6 回 (平成 24 年 12 月 7 日)
- 第 7 回 (平成 25 年 1 月 25 日)
- 第 8 回 (平成 25 年 3 月 1 日)

授賞審査委員会

委員数：藤久保委員長以下 7 名

期日：平成 24 年 4 月 13 日

場所：大阪大学コモンイースト 出席者：7 名

研究運営委員会

委員数：山崎研究運営委員以下 11 名

第 1 回 (平成 24 年 11 月 12 日)

場所：大阪府立大学海洋システム工学科会議室、出席者：8 名

支部規則改定検討会

委員数：瀬崎支部長以下 9 名

期日：平成 24 年 6 月 8 日

場所：大阪大学船舶海洋会議室、出席者：8 名

3. 西部支部

定時総会

期日：平成 24 年 5 月 8 日

場所：九州大学 21 世紀交流プラザ I 講義室

議事：

- (1) 役員承認
- (2) 第 7 期 (平成 23 年度) 事業報告および会計報告
- (3) 第 8 期 (平成 24 年度) 事業計画および予算
- (4) 西部支部細則一部改定の件

西部支部運営委員会

委員数：新開明二支部長ほか、25 名

第 1 回 (平成 24 年 5 月 8 日)

場所：九州大学 21 世紀交流プラザ I 講義室

主要議事：

- (1) 平成 24 年度予算・事業計画
- (2) 講演会について
- (3) World NAOE Forum 開催の件

第 2 回 (平成 24 年 8 月 8 日)

場所：アクロス福岡 会議室

主要議事：

- (1) 平成 24 年度事業計画の詳細
- (2) 支部代議員の選出
- (3) World NAOE Forum 2012 の進捗報告
- (4) 秋季講演会について
- (5) 西部支部会計帳簿について

第 3 回 (平成 24 年 11 月 12 日)

場所：アクロス福岡 会議室

主要議事：

- (1) 平成 24 年度事業報告 (含状況報告・費用報告)
- (2) World NAOE Forum 2012 開催報告
- (3) 平成 24 年度事業計画案
- (4) 西部支部代議員選挙の件
- (5) 船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞の公募

第 4 回 (平成 25 年 3 月 27 日)

場所：JR 博多シティ 10F 大会議室

主要議事：

- (1) 平成 24 年度事業報告・決算報告
- (2) 平成 25 年度西部支部事業計画および予算案
- (3) 次期支部役員について
- (4) 平成 25 年度春季講演会について
- (5) 船舶海洋科学技術啓発広報活動奨励賞